

高度資本主義国が更に高度な資本主義国に全面的に従属するという

世界史的に見て新奇な形の植民地が現在日本ではないか

(文中のURLをクリックしてください)

(1) あまりマスメディアでは大きく報じられませんでした。翁長知事が辺野古沖の埋め立て承認を取り消したことを受け、米国国務省は2015年10月13日、辺野古沖への基地移設は「**米軍再編という構想を実現させるためには不可欠な措置**」と明言しました(ご参照:<http://c1.cocolog-nifty.com/blog/files/03.pdf>)。このことは、辺野古沖への基地移設は米国の軍事的・政治的要求であり、日本国政府は他国の要求実現のために自国民(この場合は沖縄県民)を犠牲にしようとしていることを再確認させました。他国の軍事的・政治的要求の実現のためには自国民の犠牲をいとわないのを**軍事的・政治的に従属**しているといえます。

また、翁長知事が埋め立て承認を取り消したことを受け、日本国政府は国家機関(防衛省)に国家機関(国交省)に対して県のしたことについて行政不服審査を申し立てさせるという法的根拠のない手法を強行して承認取り消しの無効化を図っています(行政不服審査とは国民が国家機関や自治体の決定に不服があるときに申し立てるもの)。**法的根拠のない手法の強行がまかり通る国は法治国家とはいえません**(ご参照:<http://c1.cocolog-nifty.com/blog/files/04.pdf>)。日本国政府は、日本の法令ではなく他国の命令を法(守るべき規範)として他国の要求を実現せんとしています。日本は他国に**法的にも従属**しているといえます。それは、米軍基地が要地を占領して沖縄の経済・生活を圧迫していることや米兵の犯罪や米軍事故などをどうすることもできないように、すでに日本国憲法や日本の法律が日米安保条約・日米地位協定の下に置かれていることで既成事実です。

(2) **戦争法**は、他国の行なう戦争に参加して自らも海外で戦争できるようにする(集団的自衛権を発動する)という違憲の法律で、米国の要求により、法的手続きも過半数の国民の反対も無視して強行制定されました。自国の若者に犠牲を強いる戦争法が、他国の要求に基づいて立憲主義を否定して制定されたことも、日本が他国に軍事的・政治的に、法的に従属していることを示しています(ご参照:<http://c1.cocolog-nifty.com/blog/files/01.pdf>)。

(3) 米国の要求により**TPP**(ご参照:<http://fileshelf.cocolog-nifty.com/blog/2012/12/post-cb09.html>)に参加したことは米国に経済的にも従属していることを示しています。

(4) 東京ディズニーランドやハリウッド映画のテーマパーク(USJ)は日本が文化的にも米国に従属している象徴である、とは以前から指摘されてきました。

(5) 以上から、今日の日本は、全面的に(軍事的にも政治的にも法的にも経済的にも文化的にも)米国に従属しているといえるのではないのでしょうか。全面的に従属している状態は植民地といえます。

「全面的に」や「植民地」とまでいうのは言い過ぎであったとしても、軍事的・政治的には完全従属しています。また、経済的にもかなり従属しています。

(6) 高度の資本主義国でありながら他国に従属させられている資本主義国は「**卑屈資本主義国**」とも呼べるでしょう。国が卑屈であることの最大の弊害は、誇れるに値する国で生まれ育つことができないので自国に誇りを持たない若者が生まれることです。誇れるに値する国とは、他国に従属しないし他国に従属させられない、他国をないがしろにしないし他国からないがしろにされない、そのような正々堂々とした国(独立不羈どくりつふきの国)です。日本で生まれ育つとどうしても、日本は経済的には大国なのに他国(米国)からないがしろにされている、自国は他国(米国)に比べて劣っているというコンプレックスが生まれてしまい日本に誇りが持てません。そのコンプレックスを解消するために、無

理やり、日本人は他のアジア人と違って優秀で、卑劣なことはしないししてこなかったと思いたい、思われたいと考え、それに基づいてアジアの他民族を敵対し一段見下した言動をする。そして、敵対し一段見下した他民族から、日本の過去の卑劣な行為（侵略＝弱い者いじめ）を指摘されると激怒する。逆に、自分たちより上にいると思っている米国人から卑劣な行為（宣戦布告前に攻撃するという国際法違反の真珠湾攻撃）を指摘されても怒らないし、米国人から卑劣な行為（残虐兵器は使用しないとの国際法違反の原爆投下）を受けたことには怒らない。このような、日本に誇りを持ってないがゆえに卑屈な言動をする「ネトウヨ」と呼ばれる若者が排出し、その勢力にも応援されて反動政策を政府が進めるという弊害が、この間、強まってきています。日本を「卑屈な国＝誇れない国」にしている原因を除去することが求められています。

<追記>

高度（先進）資本主義国が別の高度（先進）資本主義国に従属させられるというのは世界史上初めての新奇なことです。

第2次世界大戦前は、先進資本主義国は対等な同盟を結ぶか（独伊英三国同盟・英仏露三国協商・日英同盟）、対等に対立したあげく戦争をしました（三国同盟Ⅴ三国協商+米+日という第1次世界大戦）。次いで、先進資本主義国は再度対等な同盟を結ぶか（日独伊三国同盟）、対等に対立したあげく再度戦争をしました（三国同盟Ⅴ英仏+米という第2次世界大戦）。

戦前の日本は手を組むか敵対するかはともかく**他の先進資本主義国とは対等な関係を維持**してきました。しかし、戦後日本は、戦争による荒廃から立ち上がって**資本主義を高度に発達させたにもかかわらず別の資本主義国に従属**しているという卑屈な国となりました。それが、「ネトウヨ」のような卑屈な若者を生み出しています。卑屈とは、自民族を打ち負かした民族にはコンプレックスを持っていいなりになり、**かつて自民族が支配・抑圧した民族は蔑み、いつまでも自分たちより弱く下に位置する民族で存在せよと言動**し、かつて自民族が支配・抑圧した他民族が強くなることに激しく反発することです。

戦前の日本は、他民族を支配・抑圧すること（それは戦争というかたちもとった）を正当化するために、自民族は**他のアジア民族とは違った特別な民族**（万世一系の天皇の治世の下でアジア最強の富国強兵の国をつくりあげてきた）であると虚勢を張りました。優秀な日本（大和）民族が遅れたアジアの民族を導いてやる、アジアに平和をもたらしてやる、と唱えました。戦後になっても、その虚勢を張り続けたい人や張り続けている人がいます。また、戦前の日本がやったことは間違っていなかったと思いたい人や言い続けている人がいます。例えば、靖国神社（日本が他国に行って他民族と戦い他国を戦場にしそこで亡くなった方を神＝英霊として祀っている）に公式参拝する国会議員がその典型です。かれらは、自分たちが優秀な民族＝特別な民族だと思いつけたい、そのためには、他のアジアの民族は劣っていると思いたい、自分たちは過去も現在も過ちはおかしていないと思いたい。そのため、あろうことか自分たちより劣っているはずの他のアジア民族から過ち（例えば、戦時中の無差別に大量殺害した南京虐殺や軍隊を維持するための慰安婦制度、人々を戦争に動員する装置として機能した靖国神社に戦後になっても公式参拝すること）を指摘されると激怒します（同じことを米国人から指摘されても怒らない）。

なぜ、戦後になっても、自分たちを他のアジア民族とは違った、それより上の優秀な民族＝特別な民族と思いつけたいのでしょうか。答えは、もし、自分たちが他のアジア民族とは違った、それより上の優秀な民族＝特別な民族でないとすれば、自分たちは、自分たちを打ち負かした他民族（アメリカ人）に従属しなければやっていけない、単なる劣等民族に過ぎないことになってしまうとかれらは恐れているからです。そんな恐怖を取り除くためには従属という状態を除去すればよいのですが、そのためには自分たちを打ち負かした他民族と対立しなければならず、それを乗り越える勇氣も知恵もないのです。

勇氣も知恵もないことを卑屈といいます。ネトウヨと呼ばれるような卑屈な若者が生まれる背景には、日本国家の強いものに付き従うという卑屈な従属性（植民地根性※）があるのです。 ※植民地根性：宗主国（植民地支配国）にペコペコし

てご機嫌をとること。